

障害者向け資料と外部サービス(サピエ)の紹介

N P O 全国視覚障害者情報提供施設協会 (全視情協)

サピエ事務局長 加藤俊和

1. 障害者等が必要とする資料とサービス

(1) 対象となる方々

- <情報障害(直接的)> 視覚障害者、聴覚障害者、ディスレクシア(発達障害の一つ)
- <情報障害(間接的)> 意思疎通困難者、知的障害者、発達障害者、精神障害者
- <移動困難・動作困難> 肢体不自由者、内部障害者など 点2
- <障害受容困難(要心のケア)> 中高年から障害を負った人々(視覚障害に顕著)
- <重複障害> 盲ろう者をはじめとする様々な重複障害者
- <高齢> 見えにくい・聞こえにくい・動きにくい・物忘れ、認知症、要介護

(2) 様々な形態の「資料」

- ① 見やすい資料：拡大、適切なフォント、レイアウト、図表のデフォルメ、ピクトグラム
対象：視覚障害者、ディスレクシア、知的障害者、高齢者、ほか
- ② 耳で聞く資料(音声資料)：人が読む、テキストファイル合成音声読み、図の処理 点3
対象：視覚障害者、ディスレクシア、知的障害者、高齢者、ほか
- ③ 分かりやすい資料：LLブック、マンガ化、ルビ付
対象：ディスレクシア、知的障害者、高齢者、ほか
- ④ 触わる資料：実物・レプリカ・模型、点字資料、触図資料、触る絵本、点字付絵本
対象：視覚障害者、ディスレクシア、知的障害者、高齢者、ほか

(3) テレビや映画などのバリアフリーとDVD資料

- ① 音声部分を文字で：<文字テロップ付加> 普及進む(CMにも)一般にも好評 点4
- ② 音声部分を手話で：<手話映像付加> まだわずか。手話動画も。アイドラゴン。
- ③ 画像部分を音声で：<解説放送付加> まだわずか。映画の取り組みは各地で。

(4) 人的な対応、様々な機器用具の利用

- ① 情報支援の種類：図書資料に限らない。持ち込み資料から検索まで。
対面朗読、手話・口話・要約伝達を始め、様々な情報支援サービス
- ② 情報支援の場所：図書館等施設、移動図書館、施設訪問、在宅支援 点5
- ③ 情報機器用具の利用：必要機器用具設置、利用講習会開催、指導者養成など

2. 障害者等の「情報提供保障」の観点から

(1) 福祉・情報関係の法律等の動き

* 障害者総合福祉法 (2013年4月施行)

障害者自立支援法から「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」へ
その中に「視覚障害者の同行援護」新設、「移動に伴う情報支援」を明記。

* 障害者差別解消法 (2016年4月施行予定)

点6

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」

差別等の権利侵害行為の禁止。

社会的障壁の除去を怠り権利侵害行為がないように**合理的配慮**の提供を義務づけ。

国が啓発と知識普及をはかること

* アジア太平洋障害者の権利を実現するためのインチョン戦略 (2012年10月)

「アジア太平洋障害者の10年 (2003-2012) の実施に関する最終評価のためのハイレベル政府間会合」による

* マラケシュ条約 (2013年6月): 障害者のアクセス権と著作権の調和

点7

(2) 著作権法改正 (2010年1月施行)

特に関連が深いのは、第37条3項 (視覚障害者等) など

* 許諾なしで製作できる媒体の拡大

・ 音声、文字データ (テキストファイル)、画像、マンガ化、解説、字幕、…

・ サピエ: 「点字」「音声デイジー」「テキストデイジー」、テキストファイル、…

* 視覚障害者「等」の大きい拡がり: 発達障害者も明示

サピエの個人会員数12,005人(10月末)。A会員(視覚障害個人)が大部分。

点8

B会員(視覚障害以外の障害者個人)は163人。ディスレクシア等も音声利用!

* 許諾なしで製作できる団体の拡大: 点字図書館・盲学校、公共図書館、認可団体等。

しかし、サピエの公共図書館等の施設会員は、書誌情報の登録はできるが、
音声デイジーについてはデータの登録を当分できない (サーバ容量のため)。

* 第37条3項「ただし書き」で、音声図書が [出版] されたら製作できなくなった。

情報保障の基本: 「音声図書も墨字と同様に出版社が保障して製作販売する社会へ」

点9

原本出版社の許諾を得ての録音図書出版: (有)オフィス・コアや(株)音訳サービスJ、等

(3) 必要な資料の入手・製作

* 社会的な保障の進展: でも必要な形態の資料が購入・入手できるのはごく一部

* 現状は、協力者やボランティアによる製作やサービス提供で支えられている。

* 全国の図書館に存在する資料の相互貸借: サピエのオンラインリクエスト等

3. 「サピエ」って、なに？ <http://www.sapie.or.jp/>

点10

サピエの活用で情報環境が大きく変わってきた！

(1) サピエ図書館 (数字はいずれも2013年10月末現在)

* 「サピエ」の直接利用

点字データ・(肉声の)音声データは世界一の豊富さ。サピエによる利用の大幅拡大。

(世界の主流は、テキストデータのサービス。いつでも点字や音声化できるから。)

点字データ16万タイトル+音声デイジーデータ5万タイトル

サピエ直接利用個人会員1万2千人は自由なダウンロード<視覚障害者の読書の自由> 点11

* 携帯電話「サピエモバイル：デイジー館」の利用拡がったが、スマホ対応できずで頭打ち。

「デイジーオンラインサービス」(リンクポケットなど)利用も2千人へ。

* テキストデイジーデータ(326タ)の利用へ、マルチメディアデイジー(30タ)も。

* 「サピエ図書館」の相互貸借オンラインリクエストで多くの間接利用

全国62万タイトルの点字本・テープ本・デイジーCDの相互貸借をオンラインで

サピエの施設・団体会員を利用する、視覚障害者約6万人、他の障害者は？ 点12

施設・団体269 (公共図93、点字図86、大学7、盲学校15、ボラ団体43、他25)

(郵送サービスの問題：視覚障害者は無料だが、他の障害者は郵送料がかかる。)

* サービス等管理用「Web図書館システム」：「N-LINK」の改訂Web版(導入進む)

(2) 図書製作の支援システム、さまざまな情報「地域・生活情報」 点13

* 点字・音声資料の製作工程の管理：製作者・校正者・修正者、校正内容、日程管理

点字資料製作支援ソフトBESXも開発しサピエ施設・団体会員に配布。

下調べツール：読み方調べなど 校正中音声デイジーデータの限定利用も

* 「地域・生活情報」で、東日本大震災「点字毎日特別号外」連日掲載、利用あり。

豊富な情報へ：行政・自治体からの福祉情報、緊急情報など

点14

生活に必要な地域の種々の情報の集積＝視覚障害者以外も活用可能。

だれが発信？ 点字図書館、公共図書館、各団体が協力者を得て…

行政・自治体の協力で福祉情報。地元の企業やボラの協力で買い物情報なども。

視覚障害者その他の様々な方々への地域の情報発信源に。

* ポータルサイトに「お役立ちリンク集」

(3) サピエの「数」の推移

点15

	(ないーぶ) (サピエ)		(すべて月末数)		
	2010. 3	2011. 3	2012. 3	2013. 3	(2013. 10)
点字データ	112, 866	124, 073	134, 582	145, 765	151, 489
音声デジータ	0	22, 897	33, 798	42, 795	47, 404
テキストデジータ	0	37	92	196	326
マルチメディアデジータ	0	0	10	22	30
完成書誌合計	494, 861	510, 293	535, 220	599, 093	617, 100

点16

(音声デジータは、ないーぶでは扱わず、10月にビブリオ音声データ 約1500タイトルアップ)

	(ないーぶ) (サピエ)				(すべて月末人数)			
	2010. 3	2010. 9	2011. 3	2011. 9	2012. 3	2012. 9	2013. 3	(2013. 10)
A会員	6, 105	7, 392	8, 363	9, 104	9, 870	10, 542	11, 075	11, 842
B会員	—	10	41	68	94	109	130	163
合計	6, 105	7, 402	8, 404	9, 172	9, 964	10, 651	11, 205	12, 005
増加数		+1, 297	+1, 002	+768	+792	+687	+554	(+800)

点17

(ビブリオ音声配信 ?人) (携帯利用開始) (6月事故影響?)

ネットワーク名	てんやく広場		ないーぶネット	サピエ			
	1989. 3	1998. 6		2010. 3	2011. 3	2012. 3	2013. 3
点字図書館			85	86	86	86	86
公共図書館			57	58	69	87	93
大学図書館			12	11	9	9	7
視覚特別支援校			5	8	9	13	15
ボランティア団体			39	40	40	42	43
その他			15	20	22	24	25
合計	21	73	213	223	237	261	269

(すべて月末数)

< 参考 >

* サピエ事務局 sapie-jimu@naiiv.net tel/fax : 06-6441-1078

* 「サピエ」の名称 サピエンティア (ラテン語で「知識・叡智」を意味する言葉) から。

* サピエの歴史

点19

1988年8月：日本IBMの社会貢献活動「てんやく広場」スタート<点字データ共有>

1998年：全視情協が運用「ないーぶネット」 <+点字・録音所蔵資料オンリク>

2004年：日点と日ラで、音声データの配信が始まる。

2010年4月：システム管理日点、運営全視情協の「サピエ」<上記+デイジーデータ>

(2009年度厚労省補正予算で開発、日点と日ラ2004年からの「びぶりおネット」統合)

* サピエ利用会費

点20

個人会員の利用は無料。(寄付金のお願いはしている。)

施設・団体会員は年4万円。ボランティア団体については年1万円(2013年度から)。

「高い」? 本当は非常に廉価<たった年4万円で数万冊もの音声本が利用できる!>

* テキストデータ・テキストデイジーの利用

視覚障害者等から、文字のデータ(テキストファイル)の利用要求高まる。

出版社データ提供もあるが、一部にとどまる。CD付録、墨字本購入で提供、など。

(出版社は、データが流出して墨字の本が売れなくなるのを恐れる?)

テキストデイジー：文字のデータ(テキストデータ)をデイジー形式に編集したもの。点21

製作：全視情協はソフト「プロジューサ」を原則。いまだ試用版で未発売。

セキュリティ機能あり。原本出版社の協力を得て、多くの墨字のデータ収集を目指す。

再生：テキストデイジー専用機器・ソフトで合成音声読み上げを行って再生。

PTN2、PTP1、ブックセンスなど。ソフト「Amis」やMybook IIでも。

(アメリカでは、「ブックシェア」としての拡がりも)

* マルチメディアデイジーの利用

「テキストデイジー」との連動。墨字拡大やフォーカス、音声情報が同期して表現。点22

特に、ディスレクシアの方々。動画も扱え、世界的なデイジー化・E-PUBの流れ。

* スマホと電子書籍

電子図書は視覚障害者等にとっても大きな情報革命。日本の電子書籍はまだまだ少ない。

スマホは、少しずつ普及へ。しかし、大多数の視覚障害者がスマホを使えない。

ロービジョン者には、マウスよりも直接的で分かりやすく大きなメリット。